

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第52期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 N C S & A 株式会社

【英訳名】 NCS&A CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松 木 謙 吾

【本店の所在の場所】 大阪府中央区城見1丁目3番7号

【電話番号】 (06)6946-1991(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員専務 管理本部長 山 口 満 之

【最寄りの連絡場所】 大阪府中央区城見1丁目3番7号

【電話番号】 (06)6946-1991(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員専務 管理本部長 山 口 満 之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
N C S & A 株式会社東京本社  
(東京都江東区豊洲5丁目6番36号)  
N C S & A 株式会社名古屋支社  
(名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期 連結累計期間	第52期 第2四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	9,029,005	8,896,038	18,599,798
経常利益又は経常損失( ) (千円)	118,099	215,097	285,499
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失( ) (千円)	110,605	315,407	273,636
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	121,369	290,509	338,202
純資産額 (千円)	9,751,900	9,352,940	9,884,821
総資産額 (千円)	16,079,268	15,494,814	16,305,884
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額( ) (円)	5.40	17.08	13.96
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		-	-
自己資本比率 (%)	60.6	60.4	60.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	813,987	709,982	871,630
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	301,048	201,238	883,360
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,045,105	357,827	1,467,197
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	6,977,042	7,347,140	7,197,629

回次	第51期 第2四半期 連結会計期間	第52期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.61	8.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第52期第2四半期連結累計期間において1株当たり四半期純損失金額が計上されており、またすべての期間において潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、恩喜愛思(上海)計算機系統有限公司につきましては、当第2四半期連結会計期間において清算終了したことから、連結の範囲から除いております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善し、景気は引き続き緩やかな回復基調にある一方で、中国を始めとするアジア新興国経済の減速懸念等、景気の先行きについては不透明な要素が見られました。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、国内景況感の改善にともないIT投資は堅調に推移しており、特に、AI、IoT、ビッグデータ等の新たな技術による生産性向上、需要創出、社会的課題の解決等の取り組みは実用段階に入りつつあり、その利活用は今後も拡大していくものと予想されております。

このような環境のもと、当社グループは、さらなる収益性向上を目指し、ホテル業向け予約システム「i-honex（アイホネックス）」、システムの可視化ソリューション「REVERSE PLANET（リバースプラネット）」、金融業向け個人信用情報接続ソリューション「Ccms（シー・シー・エム・エス）」等の自社製品の機能強化と販売拡大に取り組んでまいりました。また、システム共通基盤（エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマートの「intra-mart（イントラマート）」）による効率的なシステム開発の拡大を図るとともに、中小・中堅製造業向け生産管理システムや流通業向け販売管理システムの導入拡大、IBM i（System i、iSeries、AS/400）ユーザー向けの新たなアウトソーシングビジネスに向けた取り組みを進め、受注状況は計画を上回るものとなっております。

新たな分野であるAIについては、「IBM Watson Explorer」による業務イノベーション支援サービスの取り組みを開始しており、既存顧客へのサービス提供及び自社製品への組み込みを含めた検討を進めております。

また、『働き方改革』の推進に向け、昨年度まで取り組んできた「時間外労働の縮減」「有給休暇の取得促進」に一定の成果が出てきたことから、一歩進めて、勤務形態の多様化対応や付加価値創造に向けた生産性向上へ取り組みを開始しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は88億96百万円（前年同四半期は売上高90億29百万円）となりました。利益面につきましては、納期遅延による一部の不採算プロジェクトの影響が大きく、営業損失は2億33百万円（前年同四半期は営業利益37百万円）となりました。また、経常損失は2億15百万円（前年同四半期は経常利益1億18百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億15百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益1億10百万円）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は154億94百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億11百万円減少いたしました。流動資産は120億2百万円となり、10億4百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少(10億50百万円)等であります。固定資産は34億92百万円となり、1億93百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産の増加(25百万円)、無形固定資産の増加(1億19百万円)、投資有価証券の増加(51百万円)等であります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は61億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億79百万円減少いたしました。流動負債は28億1百万円となり、2億76百万円減少いたしました。主な要因は、未払金の減少(1億51百万円)、その他に含まれる未払費用の減少(1億14百万円)等であります。固定負債は33億40百万円となり、2百万円減少いたしました。主な要因は、リース債務の増加(28百万円)、退職給付に係る負債の増加(32百万円)、長期借入金の減少(33百万円)、長期未払金の減少(30百万円)等であります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は93億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億31百万円減少いたしました。主な要因は、第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純損失の計上(3億15百万円)、配当金の支払による利益剰余金の減少(1億49百万円)等であります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末の60.6%から60.4%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ1億49百万円増加し、73億47百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は7億9百万円(前年同四半期は8億13百万円の収入)となりました。主な要因は、売上債権の減少(10億59百万円)等による収入に対して、税金等調整前四半期純損失の計上(2億12百万円)等の支出によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2億1百万円(前年同四半期は3億1百万円の収入)となりました。主な要因は、無形固定資産の取得(1億94百万円)等の支出によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3億57百万円(前年同四半期は10億45百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払(1億49百万円)、自己株式の取得(1億円)、長期借入金の返済(77百万円)等の支出によるものであります。

(4) 経営方針及び目標とする経営指標等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針及び目標とする経営指標等について、重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は48百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,000,000	20,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	株主としての権利内容に 制限のない、標準となる 株式であり単元株式数は 100株であります。
計	20,000,000	20,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年9月30日		20,000,000		3,775,100		2,232,620

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ZEN	兵庫県西宮市	1,851	9.26
日本電気株式会社	東京都港区芝5丁目7番1号	1,605	8.03
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,061	5.31
丸山幸男	群馬県館林市	1,041	5.21
NCS & A従業員持株会	大阪市中央区城見1丁目3番7号	671	3.36
株式会社日本信用情報機構	東京都千代田区神田東松下町41番1号	530	2.65
小路口謙治	大阪府豊中市	419	2.10
株式会社クリナム	東京都中央区日本橋箱崎町17番1号	398	1.99
アイ・システム株式会社	東京都千代田区九段南4丁目8番13号	398	1.99
梶川融	東京都渋谷区	397	1.99
計	-	8,375	41.88

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,596千株(7.98%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,596,100		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,389,800	183,898	同上
単元未満株式	普通株式 14,100		同上
発行済株式総数	20,000,000		
総株主の議決権		183,898	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が43,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数430個が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式71株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) NCS & A株式会社	大阪市中央区城見 1丁目3番7号	1,596,100		1,596,100	7.98
計		1,596,100		1,596,100	7.98

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,312,639	7,462,154
受取手形及び売掛金	4,543,639	<sup>1</sup> 3,493,607
有価証券	2,651	21,028
商品及び製品	218,370	235,837
仕掛品	<sup>2</sup> 377,313	<sup>2</sup> 382,755
繰延税金資産	297,413	193,144
その他	255,436	214,263
貸倒引当金	311	169
流動資産合計	13,007,152	12,002,621
固定資産		
有形固定資産	293,809	319,343
無形固定資産	513,069	632,416
投資その他の資産		
投資有価証券	<sup>3</sup> 1,051,092	<sup>3</sup> 1,102,928
繰延税金資産	916,463	905,024
差入保証金	243,937	239,969
その他	350,649	362,802
貸倒引当金	70,291	70,291
投資その他の資産合計	2,491,852	2,540,434
固定資産合計	3,298,731	3,492,193
資産合計	16,305,884	15,494,814

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	479,004	1 511,345
1年内返済予定の長期借入金	128,336	84,412
リース債務	67,318	72,138
未払金	1,244,137	1,093,129
未払法人税等	147,076	85,621
繰延税金負債	315	-
賞与引当金	407,027	395,038
役員賞与引当金	10,450	-
受注損失引当金	51,283	99,034
その他	543,024	460,376
流動負債合計	3,077,974	2,801,097
固定負債		
長期借入金	83,392	50,074
リース債務	106,116	134,513
退職給付に係る負債	3,101,609	3,134,219
長期未払金	51,970	21,970
固定負債合計	3,343,088	3,340,777
負債合計	6,421,062	6,141,874
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,775,100	3,775,100
資本剰余金	5,799,356	5,799,651
利益剰余金	707,439	242,821
自己株式	352,436	444,891
株主資本合計	9,929,460	9,372,681
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	93,095	142,684
為替換算調整勘定	44,919	8,763
退職給付に係る調整累計額	182,653	171,188
その他の包括利益累計額合計	44,638	19,741
純資産合計	9,884,821	9,352,940
負債純資産合計	16,305,884	15,494,814

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	9,029,005	8,896,038
売上原価	6,962,866	7,008,894
売上総利益	2,066,138	1,887,144
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 2,028,187	<sup>1</sup> 2,120,861
営業利益又は営業損失( )	37,951	233,717
営業外収益		
受取利息及び配当金	9,783	11,440
有価証券評価益	47,300	-
保険解約返戻金	19,662	-
その他	8,894	8,607
営業外収益合計	85,639	20,048
営業外費用		
支払利息	5,406	1,325
その他	85	103
営業外費用合計	5,491	1,428
経常利益又は経常損失( )	118,099	215,097
特別利益		
関係会社清算益	-	<sup>2</sup> 34,418
特別利益合計	-	34,418
特別損失		
訴訟関連損失	-	<sup>3</sup> 32,200
特別損失合計	-	32,200
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	118,099	212,879
法人税、住民税及び事業税	11,433	13,550
法人税等調整額	3,940	88,977
法人税等合計	7,493	102,528
四半期純利益又は四半期純損失( )	110,605	315,407
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	110,605	315,407

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	110,605	315,407
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,086	49,589
為替換算調整勘定	8,458	36,156
退職給付に係る調整額	12,135	11,464
その他の包括利益合計	10,763	24,897
四半期包括利益	121,369	290,509
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	121,369	290,509
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	118,099	212,879
減価償却費	107,294	121,331
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	45,456	49,035
賞与引当金の増減額( は減少)	61,820	11,989
受注損失引当金の増減額( は減少)	9,608	47,751
受取利息及び受取配当金	9,783	11,440
支払利息	5,406	1,325
有価証券評価損益( は益)	47,300	-
関係会社清算損益( は益)	-	34,418
役員賞与引当金の増減額( は減少)	-	10,450
売上債権の増減額( は増加)	793,930	1,059,005
たな卸資産の増減額( は増加)	69,574	22,909
仕入債務の増減額( は減少)	151,455	72,124
差入保証金の増減額( は増加)	1,116	1,092
保険積立金の増減額( は増加)	1,442	8,517
未払金の増減額( は減少)	57,402	38,561
未払消費税等の増減額( は減少)	191	37,960
その他	67,526	68,962
小計	860,871	749,327
利息及び配当金の受取額	10,635	11,423
利息の支払額	5,608	1,386
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	51,910	49,381
営業活動によるキャッシュ・フロー	813,987	709,982

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	40,009	40,014
定期預金の払戻による収入	40,004	40,009
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	595	682
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	2,070	2,345
有価証券及び投資有価証券の償還による収入	500,000	-
有形固定資産の取得による支出	14,917	5,036
無形固定資産の取得による支出	180,135	194,120
その他	5,369	3,740
投資活動によるキャッシュ・フロー	301,048	201,238
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	150,000	-
長期借入金の返済による支出	441,752	77,242
リース債務の返済による支出	32,661	39,213
配当金の支払額	127,942	149,210
自己株式の取得による支出	596,123	100,084
自己株式の売却による収入	3,374	7,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,045,105	357,827
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,499	1,406
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	64,431	149,510
現金及び現金同等物の期首残高	6,912,611	7,197,629
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,977,042	7,347,140

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

恩喜愛思(上海)計算機系統有限公司につきましては、当第2四半期の連結会計期間において清算終了したことから、連結の範囲から除いております。

(2) 持分法の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。  
なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	- 千円	16,892千円
支払手形	- 千円	12,293千円

- 2 損失が見込まれる請負契約プロジェクトに係る仕掛品は、これに対応する以下の受注損失引当金を相殺表示しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
仕掛品にかかるもの	77,269千円	217,996千円

- 3 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
投資有価証券(株式)	3,000千円	3,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
役員報酬	107,600千円	120,600千円
給料手当及び賞与	911,391千円	898,966千円
賞与引当金繰入額	68,623千円	71,326千円
退職給付費用	87,271千円	83,819千円
福利厚生費	276,683千円	282,127千円
賃借料	93,864千円	95,090千円
旅費及び交通費	56,032千円	59,716千円
研究開発費	24,130千円	48,027千円

- 2 関係会社清算益

恩喜愛思(上海)計算機系統有限公司の清算終了に伴い発生したものであります。

- 3 訴訟関連損失

当社が開発・製作した基幹ソフトウェアシステムに関して、損害賠償を求められた訴訟において和解が成立したことから発生した解決金(17,200千円)及びその他関連費用であります。



(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	7,092,052千円	7,462,154千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	115,009千円	115,014千円
現金及び現金同等物	6,977,042千円	7,347,140千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月16日 取締役会	普通株式	127,942	6.00	平成28年3月31日	平成28年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	149,210	8.00	平成29年3月31日	平成29年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはソフトウェア開発を中心とするコンピュータ関連総合会社で、コンピュータ関連機器販売及びソフトウェア開発の両面を事業分野としております。

顧客の利用目的に応じたコンピュータ機器の選定とソフトウェア開発を主とするITサービスを事業内容としており不可分の営業形態の単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )	5円40銭	17円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	110,605	315,407
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	110,605	315,407
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,490	18,467

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第2四半期連結累計期間において1株当たり四半期純損失金額が計上されており、またすべての期間において潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月7日

NCS & A株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 祥二郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 樋野 智也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNCS & A株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NCS & A株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。